

新潟市南区体育施設指定管理者申請者評価会議
味方・月潟地区体育施設ヒアリング 議事録

1 開催日時 令和5年10月13日（金）午後2時30分から午後4時00分

2 会場 南区役所 4階 講堂

3 出席者 評価会議委員：細田 隆史、山本 悦史、渋川 順
事務局：南区地域総務課職員4名

4 傍聴者 2名

5 要 旨

(1) 公益財団法人新潟市開発公社によるプレゼンテーション（省略）

(2) 質疑応答

(山本委員)

昨年度の事業報告の中の主なスポーツイベントとして、味方B&G海洋センタープールでの水辺の安全教室の記載があるが、それ以外にも実施したイベントはありますか。

(申請者)

味方B&G海洋センタープールでの水辺の安全教室のみとなります。

(山本委員)

スポーツイベントの必要性、ニーズがないためということでしょうか。

(申請者)

なかなか集客が見込めないため、一般開放を中心とした運営をしています。

(山本委員)

野球場、プール、テニスコートなどは区内に類似の施設がありますが、住み分けとしてはどのように考えていますか。

(申請者)

野球場に関しましては、味方・月潟野球場は、白根野球場と西区のみどりと森の運動公園野球場という新しい野球場に挟まれています。大きな大会については、その2つの野球場が利用され、

味方・月潟野球場は予備会場としての役割と練習場としての役割が主になっています。

(山本委員)

味方・月潟野球場の現在の利用状況はどうでしょうか。

(申請者)

コロナ明けということもありますが、平日の日中はあまり利用がなく、土日と暖かい時期のナイター利用がメインになっています。

(山本委員)

野球場が野球以外の目的で利用されることはありますか。

(申請者)

少年サッカーの利用と地域のお祭りイベント会場として利用されています。

(渋川委員)

交通の便が悪く、不便な立地条件の中、皆さんよく頑張っていると感じました。年代を問わず利用があるし、障がい者団体のミニ運動会の会場として利用されているときに私も行ったことがあります。少年野球の競技人口が減少している中で、少年サッカーチームに野球場を利用してもらっていることや、市外の中学校からも利用があることに驚きました。これからも頑張ってください。

(細田委員)

B & G財団と新潟市開発公社との関係はどのようなものなのでしょうか。新潟市開発公社が指定管理者に選定されなかったとしてもB & G財団との関わりは持つことになりますか。

(申請者)

旧味方村がB & G財団にプール施設を建設してもらい、村が譲渡を受けた施設となります。B & G財団が設立に関わっているため、指導員の配置や関連事業の実施など、その後の運営もB & G財団が関わることになっています。別な指定管理者が管理することになったとしても、施設管理者としてB & G財団と関わりを持つことになります。

(細田委員)

弱みの部分として人材確保を挙げられていますが、どう克服していくかということと、有資格者の確保とありますが、どのような資格を持った方がいるか教えてください。

(申請者)

指定管理者制度は指定管理料の上限が決まっており、正職員を雇用しづらいということから人材確保が厳しい状況にあります。ただ、スポーツ専門の大学や専門学校がある中で、スポーツ施設等で働きたいという方もおり、そういったところから採用することで人材確保を行っていきたいと考えています。

(細田委員)

味方・月潟地区は新潟市の中でも人口が少ない地域だと思うので、利用者数や人材確保の面でも苦労されているのではないかと感じました。

最後に、低廉安価なスポーツ教室の提供と説明がありましたが、民間事業者である指定管理者よりも低廉安価にできる理由があれば教えてください。

(申請者)

民間事業者と違い、スポーツの普及振興と健康増進を目的とした公益目的事業として行っているためです。

(山本委員)

民間事業者が指定管理を行う場合と比較して、価格以外の部分での強みや弱みがあれば教えてください。

(申請者)

私たちが重視しているのは安全利用という点です。普段の生活よりも運動中、もしくは終了後は突然死等のリスクが上がります。必ずそういった事故が起きるという前提で様々な対策に取り組んでいます。

(山本委員)

公共施設ということで、味方・月潟という地域をよく知ったうえで、地域とともに歩んでいける団体に管理してもらいたいとは思っていますが、これまで管理してきた中でこの地域にどういった課題があって、今後どのようにしていきたいか教えてください。

(申請者)

南区の中でも人口が少なく農業に従事されている方が多い地域。飲酒や喫煙をされる方の割合が多く、高齢化も進んでいる地域だと認識しています。

その中で、公民館や小学校からの依頼を受けて運動指導をすることや、高齢者や女性向けのスポーツ教室を実施することで健康増進に貢献していきたいと思っています。

働かれていることでスポーツ教室への参加が難しい30～40歳代の男性は、フットサルの人気が高かったりするので、そのようなニーズを把握する中で健康増進に寄与していければと考えています。

(1) 申請者(次点)によるプレゼンテーション(省略)

(2) 質疑応答

(細田委員)

スタッフの雇用環境を良くすることで利用者へのサービス向上にもつながると思いますが、スタッフの有休取得率を教えてください。

(申請者)

弊社はサービス業がメインとなっており、なかなか休みが取りづらい状況ではありますが、社員に年間10日間の取得計画を提出させており、必ずとるようにしています。

(細田委員)

御社の財務について、直近3期の決算がマイナスになっています。コロナ禍の真只中なのでマイナスというのもおかしくないですが、マイナスになった理由と解消の見込みがあれば教えてください。

(申請者)

スポーツクラブなど色々な事業を行っていますが、新型コロナウイルス感染症による消費マインドの低下により、売上が低下しました。また、新規出店などの投資も行ってきましたので、その分の費用でマイナスとなったこともあります。今後については、回収し、次年度には完全回復する計画となっています。

(細田委員)

収支計画書について、人件費の中の研修費が令和7年度から8年度で大きく減少しているのはなぜでしょうか。

(申請者)

業務仕様書に定められているとおり、B&G海洋性レクリエーション指導員の配置が必要となっており、沖縄もしくは鹿児島に33日間の研修に参加することとなっています。その費用として初年度に一人、リスクヘッジとして次年度にもう一人分の費用を計上しており、翌年度からは通常の研修費に戻るためです。

(細田委員)

最後に、時間の都合であまり説明がなかったと思うのですが、プール施設についてご説明いただけますでしょうか。

(申請者)

これまでプール施設の実験がある者が常駐する予定です。現在は、夏休みの子どもの利用が多くあると思いますが、大人向けの水泳教室は実施されていないようなので、弊社スタッフが実施したいと思っています。

また、子ども用の浮き輪の貸し出しなどでサービス強化を図っていきたいと考えています。

(山本委員)

味方体育館の2階にフィットネスエリア、ストレッチエリア、子育てエリアを設置するという提案をいただきました。御社のフィットネスエリアに比べて狭いスペースだと思いますが、どの程度のもので設置できるのかということと、カルチャーセンターにあるものも含め既存のフィットネスエリアとの住み分けをどのように考えているか教えてください。

(申請者)

フィットネスエリアに関しては、味方体育館は200Vの電源が使用できないので、高齢者向けの重りで調節する器具を置ければと思っています。ストレッチエリアに関しては、ストレッチポールなど気軽に利用できるものを置きたいと思っています。子どもエリアに関しては、現在置いてある遊具が古いので整理したいと考えています。市所管課と相談しながら決定したいと思っています。

(山本委員)

卓球の人気があるので、卓球台を増やしていききたいということですが、現状で卓球台が何台あって、何台増やす予定ですか。

(申請者)

現在何台あるかは把握していませんが、ニーズや利用率によって考えていきたいと思います。

また、市内の体育施設にはない卓球マシンも有していますので、一人でも卓球をすることができます。ハード面だけでなくそういった面でもサービス強化を図っていきたいと考えています。

(山本委員)

味方体育館の柔道場について、地元の柔道団体の人数が減少し、稼働率が落ちてきている状況にどう対応していくか、稼働率をどう上げていくかという点をお聞かせください。

(申請者)

日中より夜の利用が多いと思うので、サービス強化には高齢者に向けたアプローチが必要と考えています。体育館より床が柔らかい柔道場の方が良い教室や講座もあるので、体育館と住み分けができるのではないかと考えています。

(山本委員)

指定管理制度は、既存の施設をいかに活用していくかというところもあり、冷暖房設備がない点が民間施設と異なっていると思いますが、例えば熱中症などの対応のノウハウという点ではどのような状況でしょうか。

(申請者)

私たちが体育館運営やバドミントン4面あるスタジアムも運営しているためノウハウを有しています。今年は特に猛暑でありましたが、熱中症予防の対策は必ず必要になります。WBGT値の基準をしっかりと守ることが重要ですし、それ以外には、広い館内を冷やすことは難しいので扇風機の増大や保冷剤・氷嚢を完備して熱中症に備えた環境づくりをマニュアル化して運営していきたいと考えています。

(山本委員)

苦情対応についてお伺いします。苦情や意見が出てきやすい環境づくりは非常に大事だと思いますが、具体的な考えがあるかお聞きかせください。

(申請者)

私たちの運営している施設では、要望が多く、苦情はあまりありませんが、生の声を聴くこと、お客様とコミュニケーションをとることが第一と考えます。アンケートを活用したり、手引きを作成することで、日々の声をしっかり反映できる仕組みを考えていきたいと思っています。

(渋川委員)

色々な団体が健康づくりの教室を行っていますが、どのように運営していくか教えてください。

(申請者)

サークルや友達を作って自主的に活動をしていくところをゴールとして考えています。自宅でできる運動など日常的に体を動かすことを教室・講座で広めていきたいと思っています。

(山本委員)

利用者数の目標として年間約7,000名と提案されていますが、算出根拠を教えてください。

(申請者)

参加者増を見込んでいる施設としては、味方体育館、味方野球場、味方ゲートボール場となります。味方体育館と味方野球場については、自主事業と地元団体と連携したイベントによる増を見込んでおり、味方ゲートボール場については、ゲートボール人口が半減しているため、ニュースポーツの取り組みを計画しています。

(山本委員)

南区にある施設なので、南区の人口比率なども踏まえた区内の地元住民による利用という点ではどうお考えでしょうか。

(申請者)

年間を通じた地域活性化イベントの開催を予定しており、その中で南区にターゲットを絞ったイベントと、広く市内や市外からも来客を見込んでいるイベントがあります。南区のサービス向上だけだとこの先の成長、発展が難しいため、南区の良さを知ってもらうイベントを広くやっていく必要もあると考えています。一方で、月潟まつりや味方ふるさと納涼まつりなど地域住民の方に喜んでいただく施策をサポートすることも我々の使命だと考えています。

(山本委員)

公共施設ということで、味方・月潟という地域をよく知ったうえで、地域とともに歩んでいける団体に管理してもらうべきではないかと思っていますが、この地域にどういった課題があると認識されていて、今後どのようにしていきたいか教えてください。

(申請者)

課題の1つは、スポーツ少年団やスポーツ協会加盟団体の数が減少傾向にあることです。スポーツ少年団など子どもの事業をしっかりと行っていきたいと考えています。もう1つとして高齢者の割合が新潟市全体よりも高いため、高齢者に向けた事業を行っていきます。

また、部活動が難しい状況にあると考えています。味方・月潟を中心に活動する少年野球チームの新潟ベースボールコネクションが立ち上がったのは素晴らしいことだと思います。我々が指定管理者になった際は、継続した運営をサポートしていくことで野球人口を増やしたいと考えています。

ゲートボール場の利活用という点では、モルックというニュースポーツを選択しました。人気が出てきたということもありますが、老若男女問わず誰でも取り組みやすいスポーツであり、年齢や性別の垣根を超えた交流が生まれると思っています。

(細田委員)

最低賃金の引き上げや光熱水費の高騰でコストが上がっていく状況の中、コスト削減方法についてはどうお考えですか。

(申請者)

細かいところになりますが、我々が節電を進めていくとともに、電源スイッチのところにこまめに消すような表示をすることで、利用者に節電を呼びかけて協力いただきながら削減したいと思います。

また、人件費については、マルチプレイヤーを育成することで運営のための人員を少なくする

ことができます。

(事務局)

修繕やグラウンド整備は協力企業が対応とありますが、協力企業がJV（共同事業体）として参加しなかった理由と、見積りを複数にとって低価格の業者に依頼するのではなく、協力企業に行わせるコスト面などでのメリットがあれば教えてください。

(申請者)

協力企業とは色々なところで協力体制をとっており、シームレスに対応が可能ということ、協力は色々な施設の管理運営をしているため、ノウハウを有しており、専門性が高いということから依頼している。特に屋外施設の維持管理については、自社で行うことができないため、専門性が高いところに関しては再委託せざるを得ません。ただ、協力企業に依頼するうえで、コストが高くなるようであれば相見積もりといった対応をせざるを得ないと考えています。

以上終了